

Prospective associations between infant Sleep at months and Autism Spectrum Disorder Screening Scores at 24 Months in a Community-Based Birth Cohort

地域ベースの出生コホートにおける数カ月の乳児の睡眠と生後 24 カ月の自閉症スペクトラム障害スクリーニングスコアとの前向きな研究における関連性

A. K. Danny Nguyen

J Clin Psychiatry 2018;79(1):16m 11127

夜泣きに悩まされておられる赤ちゃんと家族は多くおられます。夜中に何回も起こされて、翌日の仕事にも差し支えることも度々です。この夜泣きの原因は沢山あります。その一つが自閉症のことがあります。自閉症と睡眠障害については既に多数の報告がありますが、この論文はある地域の 1 歳児（12 ヶ月）を前向きに経過観察して 2 歳（24 ヶ月）時に日本でもよく用いられている M-CHAT にて判定したものです。この研究では夜間の起きる回数が自閉症と関連があったと結論しています。なお夜泣きは種々

の生活での工夫、薬物（漢方薬等）によりコントロール出来ますので、お悩みの方は是非相談してください。

背景: 睡眠の問題は自閉症スペクトラム障害 (ASD) の症状と診断と関連している。しかし、過去の研究では、睡眠の問題と ASD（自閉症スペクトラム障害）の前兆症状との同時関連が研究されてきた。

出生コホートからのデータを使用して、生後 12 か月の乳児の睡眠特性とその後 24 か月の ASD（自閉症スペクトラム障害）スクリーニングスコアとの間の関連性を前向きに推定した。

方法：幼児期の神経認知発達と学習に影響を与える条件に関する縦断出生コホート研究の参加者として、子供（N = 1,096）とその母親からデータを入手した。母親は 2006 年から 2011 年の間に妊娠 16～26 週目で登録された。線形回帰を使用して、乳児の睡眠特性（夜間と日中の睡眠、夜間の覚醒、および入

眠潜時)の影響を調べた。他の心理社会的特性をコントロール(調査)しながら、生後12か月時のASD(自閉症スペクトラム障害)スクリーニングスコアを24か月目にスコア化した。

結果: 夜間覚醒の回数が、24か月時点での初期ASD(自閉症スペクトラム障害)症状の発現と有意に関連し、12か月時点での唯一の睡眠特性であった($\beta = 0.097$ 、 $P = 0.021$; 95% CI、0.014 ~ 0.180)。ただし、他のリスク、特に子どもの社会感情的リスク、12か月後の能力($\beta = 0.573$ 、 $P < 0.001$; 95% CI、0.361 ~ 0.785)は、ASDリスクの予測においてより強い関連を示した。

結論: 生後12か月までに睡眠障害のある乳児、特に夜中に頻繁に起きる乳児は、1年後に初期ASD症状が増加した。この研究は、乳児の睡眠特性が主要な心理社会的特性とともに、ASD(自閉症スペクトラム障害)リスクの臨床兆候の1つを構成する可能性があることを示唆している。

- 睡眠の問題は自閉症スペクトラム障害 (ASO) の症状と診断に関連しているが、それらが同時に現れるのか、それとも睡眠障害が ASD（自閉症スペクトラム障害）の前兆であるのかは不明である。
- 夜間覚醒は ASO（自閉症スペクトラム障害）リスクの臨床的兆候であるが、1年目の終わりに予想される社会感情的能力は、より強力な予測因子である。
- 乳児の社会感情的能力が低く、頻繁に夜中に起きる場合、臨床医は早期介入へのアクセスを提供することを検討すべきである。

ここでの社会感情的能力の特性とは持続的な注意力、順守、習熟動機、向社会的な仲間関係、共感、模倣/遊びのスキル、社会的関係性からなる。

J Clin Psychiatry 2018;79(1):16m 11127